

科目名称	理学療法評価学実習
授業コード	AD274
英語名称	Physical Therapy Evaluation Practice
学期	2024年度後期
単位	1.0
担当教員	佐野 徳雄, 五味 雅大, 新永 拓也, 渡邊 修司, 田中 和哉, 相原 正博, 青柳 達也
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	理学療法評価の目的は、検査や測定から得られた対象者に関する種々のデータを分析、考察して、対象者の障がい像を総合的に把握することであり、理学療法評価の習得は理学療法士が安全かつ効果的な理学療法的介入を実践する上で必要不可欠である。従って、本講義では、理学療法評価の総論、形態測定と関節可動域測定、徒手筋力測定法、神経学的検査、バランス反応の評価などについて、病態に対応して実践的に実施する方法を学習する。講義で学んだ各種検査・測定法については、臨床経験のある教員のデモンストレーションを参考に、学生同士で実際に行い理解を深める。
科目に関連する実務経験と授業への活用	理学療法士を目指す上で必要な、理学療法評価学における検査や測定方法、データの分析や考察方法について、理学療法士としての臨床経験のある教員がそれぞれの専門分野を分担して講義する。
到達目標	<p>【科目特有の知識・技術についての到達目標】</p> <p>2年次前期の「理学療法評価学」、「理学療法評価学実習」と併せ、形態測定、徒手筋力検査、関節可動域測定、感覚検査、反射検査などの量的検査項目について、疾患を想定した状況で実施できることを目標とする。また、各検査項目に関して、運動学、解剖学、生理学、各種病態の知識に基づき、各種疾患障害に対応した測定をできるようにする。</p> <p>【汎用能力としての学士力についての到達目標】</p> <p>検査結果について、疾患に即した解釈を行う能力を身につける。</p>
計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 理学療法評価の目的 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 2) リスク管理を伴う理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 3) 姿勢観察と理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 4) 動作観察と理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 5) 立ち上がり動作分析と理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 6) 立ち上がり動作分析と理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 7) 立ち上がり動作分析と理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 8) 立ち上がり動作分析と理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 9) 歩行動作分析と理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 10) 歩行動作分析と理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 11) 歩行動作分析と理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 12) 歩行動作分析と理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 13) 理学療法評価中間実技試験 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 14) 理学療法評価中間実技試験 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 15) 理学療法評価 バランス検査 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 16) 理学療法評価 各論 運動器疾患の理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 17) 理学療法評価 各論 運動器疾患の理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 18) 理学療法評価 各論 運動器疾患の理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 19) 理学療法評価 各論 運動器疾患の理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 20) 理学療法評価 各論 中枢神経系疾患の理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 21) 理学療法評価 各論 中枢神経系疾患の理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士) 22) 理学療法評価 各論 中枢神経系疾患の理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊：理学療法士)

計画・内容	23) 理学療法評価 各論 中枢神経系疾患の理学療法評価 (担当教員佐野,新永,相原,渡邊:理学療法士)
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を中心に各理学療法検査項目及び評価方法について、講義や教員のデモンストレーションをした後、学生同士で実技演習を行う。 授業第13-14回: 中間実技試験を実施する。 授業第16 - 23回: 4グループに分かれ、各教員のもとで実技形式の授業を受ける。
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングを取り入れ、実習や演習を適宜行う。 グループ分けを行い、課題について全員でディスカッションを行い、解決案を導き発表を行う。
授業時間外の学修	<p>予習: 教科書の項目を予習しておくこと・検査測定の基本知識について学習しておくこと(40分程度)</p> <p>復習: 教科書及びプリントを復習しておくこと(40分程度)</p>
教科書・参考書	<p>【参考図書】</p> <p>松澤正, 江口勝彦 著「理学療法評価学 改訂第6版」金原出版株式会社</p> <p>津山直一, 中村耕三 訳「新・徒手筋力検査法」協同医書出版社</p> <p>齋藤慶一郎 著「ROM計測法」メジカルビュー社</p> <p>鈴木則宏 著「神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 第3版」メジカルビュー社</p> <p>市橋則明 著「理学療法評価学 障害別・関節別評価のポイントと実際」文光堂</p> <p>細田多穂 監修「シンプル理学療法学シリーズ 理学療法評価学テキスト」南江堂</p>
成績評価方法と基準	<p>筆記試験(50%)</p> <p>実技試験(50%)</p>
課題等に対するフィードバック	提出された課題レポートの内容をもとに授業に反映させる。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 実技演習授業が主であり、必要な際には直ちにTシャツ, 短パンになれるように準備しておくこと。 実技授業においては必ず各自で予習・復習を行うこと。 実技試験は臨床実習に即した身なりで実施する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> zoom によるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 <p>成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中課題 50%と期末レポート50%で評価する。